気候移行計画

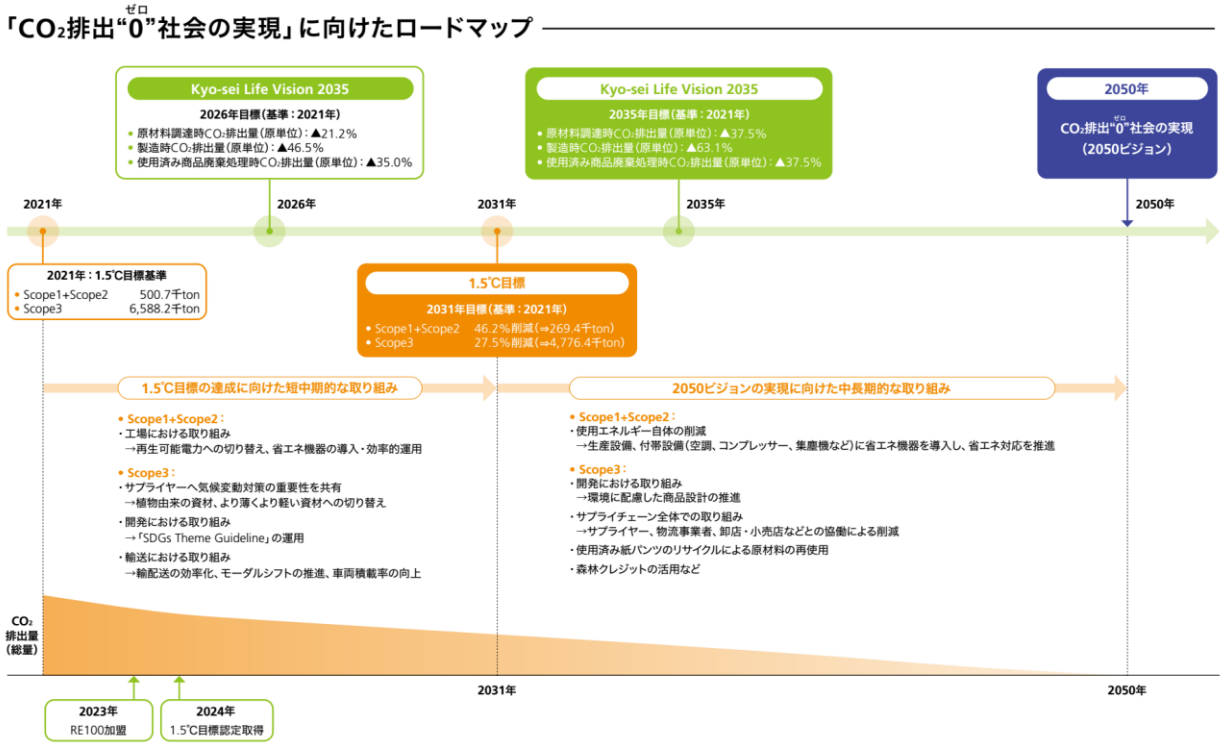
【はじめに】

ユニ・チャームグループは、「持続可能な開発目標（SDGs）の実現」に貢献することをパーパス（存在意義）としており、事業を通じて SDGs の実現に貢献することこそ、私たちの「サステナビリティ」だと考えています。これを具体化すべく、2020 年 10 月にユニ・チャームグループ中長期 ESG 目標「Kyo-sei Life Vision 2030」を公表し、気候変動対応に関連して事業活動に用いる電力を 2030 年までに 100%再生可能電力へ切り替えるという目標を設定しました。また、2020 年 5 月に公表した「環境目標 2030」では、「プラスチック問題対応」「気候変動対応」「森林破壊に加担しない（調達対応）」という 3 つの課題に対し、2050 年のあるべき姿「2050 ビジョン」を掲げるとともに具体的な目標を設定しました。

2025 年 10 月には、これまでの活動の進捗と地球や社会の変化を踏まえ、「Kyo-sei Life Vision 2030」と「環境目標 2030」を統合して重要取り組みテーマと目標を見直し、2026 年から新たに「Kyo-sei Life Vision 2035」を始動しました。この「Kyo-sei Life Vision 2035」を着実に実行することによって、環境問題や社会課題の解決、消費者や地域社会への貢献と、継続的な事業成長を同時実現することを目指します

【2050 ビジョン 「CO_2排出“0（ゼロ）”社会の実現」にむけたロードマップ】

「2050 ビジョン」で掲げた「CO_2排出“0（ゼロ）”社会の実現」に向け、JCI（Japan Climate Initiative／気候変動イニシアティブ）、JCLP（日本気候リーダーズ・パートナーシップ）、GX フューチャー・コンソーシアム、RE100 などのイニシアティブと連携しながら、当社の事業活動に伴って直接排出する CO_2量の削減に努めるとともに、プロダクトライフサイクル全体を通じた CO_2の排出量の削減につながるよう、サプライチェーンに携わる全ての関係者への積極的な働きかけを継続します。



これらの戦略はシナリオ分析に基づいています。シナリオ分析の詳細については、当社「サステナビリティレポート 2026」の 35 ページを参照してください。

https://www.unicharm.co.jp/content/dam/sites/www_unicharm_co_jp/pdf/csr-eco/report/ucsus2026.pdf#page=36

【実現に向けた施策】

Scope1 および Scope2 については、2030 年までに使用する電力を 100%再生可能電力由来に切り替えることを目標とし、グループ全体で推進しています。

Scope3 については、原材料に植物由来であるバイオマス素材やリサイクル素材を採用すると同時に、薄膜化や軽量化などにより使用量を削減するなど、CO_2排出量削減につながるような原材料の開発や使用に向けた技術開発を推進しています。

●サプライヤーへのアプローチ

資材品質の安定と調達に関する方針やガイドラインの浸透を目的として、2025 年 11 月にサプライヤーを対象とした「第 16 回ユニ・チャーム中長期方針説明会」を開催しました。パーソナルケア商品向け資材サプライヤーに加え、ペットケア商品向け資材サプライヤーや外部生産委託先など、オンラインでの参加を含め 120 社が参加しました。説明会では、サプライチェーン全体で環境基本方針、人権方針、調達方針など各種方針の周知徹底を図るとともに、環境への取り組み、人権配慮や品質向上等に向けた具体策に加え、近年重要性が増している事業継続計画（BCP）に関する方針などについて報告・説明の上、協力を依頼しました。

●行政・業界団体へのアプローチ

2025 年度は、 GX リーグ（当時）で「中間排出事業者を通じたグリーン市場創造検討ワーキング・グループ」を開始しました。加えて、GHG 排出量の具体的な削減に向けたホットスポット分析、ギャップ分析などを実施。さらにはペットケア分野への拡張や、海外現地法人（タイ、インドネシア）での展開を開始しました。

また、同業他社を中心に情報交換会を 2 年間で 3 回（2024 年 3 月と 10 月、2025 年 6 月）実施したほか、一般社団法人 日本経済団体連合会や一般社団法人 日本衛生材料工業連合会などと意見交換を行いました。

●ポリシーエンゲージメント

「2050 ビジョン」で掲げる「CO_2排出“0（ゼロ）”社会の実現」に向け、JCI（Japan Climate Initiative／気候変動イニシアティブ）、JCLP（日本気候リーダーズ・パートナーシップ）、GX フューチャー・コンソーシアムや RE100 等と連携しながら、当社の事業活動に伴って直接排出する CO_2量の削減に努めるとともに、プロダクトライフサイクル全体を通じた CO_2排出量の削減につながるよう、サプライチェーンに携わる全ての関係者への積極的な働きかけを継続します。

【指標と目標】

Kyo-sei Life Vision 2035　**地球の健康を守る・支える**

衛生的で便利な商品・サービスの提供と、地球環境をよりよくする活動への貢献の両立を目指します。

重要取り組みテーマ	指標	中長期目標	
		目標	目標年
『Refi』の社会実装拡大	『Refi』商品展開数（自社＋他社コラボ）	30件以上	2035年
	紙パンツリサイクル取り組み自治体数	20自治体	
気候変動対応	原材料調達時CO_2排出量削減	売上原単位で2021年から37.5%削減	2035年
	製造時CO_2排出量削減	売上原単位で2021年から63.1%削減	
	使用済み商品廃棄処理時CO_2排出量削減	売上原単位で2021年から37.5%削減	
持続可能性・生物多様性に配慮したバリューチェーン構築	パルプ、パーム油の原産地（国・地域）トレーサビリティ確認	100%	2035年
	認証パルプ（PEFC・CoC認証）の拡大	100%	
	認証パーム油（RSPO）の拡大	100%	
プラスチック使用量の削減	包装材における使用量削減	2022年から30.0%削減	2035年
	使用済み商品廃棄方法啓発	グループ全社で展開	
	販促物にリサイクル以外のプラスチックは使用しない	達成	

●1.5℃目標／2031 年目標（基準：2021 年）を SBT で認定取得

・Scope1 と Scope2 の温室効果ガス排出量：46.2%削減

・Scope3 の温室効果ガス排出量：27.5%削減

Scope 別・カテゴリ別 CO_2排出量は当社「サステナビリティレポート 2026」の 41 ページをご参照ください。

https://www.unicharm.co.jp/content/dam/sites/www_unicharm_co_jp/pdf/csr-eco/report/ucsus2026.pdf#page=41

【ガバナンス】

当社では、サステナビリティマネジメントを着実に実行すべく適切な体制を構築しています。具体的には、社長執行役員を委員長とする ESG 委員会を年 4 回開催し、サステナビリティ全般およびガバナンスに関する方針や活動内容について審議・決定し、その進捗状況のモニタリングを行います。ESG 委員会には、取締役や執行役員といった経営層に加えて、営業部門や開発部門、マーケティング部門、コーポレート部門、国内外の連結子会社の責任者が出席することで、決定したサステナビリティ関連の諸活動を迅速に実行できる体制を構築しています。なお、ESG 委員会での審議・決定内容については、取締役会に年 1 回以上報告しています。

▶ サステナビリティ推進体制

